

令和3年度当初予算の概要
(事業別説明資料)

教育委員会事務局



目 次

子どもたちを大きく育むドリームプロジェクトの推進	3
神岡小学校の大規模改修	4
飛騨市学園構想の推進	5
I C Tを効果的に活用した授業づくり	6
生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化	7
学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	8
地域コミュニティ活動の支援	9
飛騨市民カレッジの本開校 ～生涯学習の普及推進～	10
クアオルト健康ウォーキングの普及推進	11
飛騨市スポレク ^{まつり} 祭の開催	12
飛騨市屋内運動場の整備	13
スポーツに特化した新たな学童保育の推進	14
公共施設予約管理システムの導入	15
飛騨の糸引き工女の史実調査・研究	16
江馬氏城館跡の保存活用の推進*	17
姉小路氏関連山城群の調査・活用の推進	18
みんなにやさしい図書館づくり	19
電子図書貸出サービスの導入	20
飛騨みやがわ考古民俗館の活用促進と魅力発信	21
飛騨市美術館の大規模修繕	22

注：タイトル末尾に*印がある事業は所属ごとの概要資料のみに掲載しています（*印がない事業は主要事業編から再掲となります）

【拡充】子どもたちを大きく育むドリームプロジェクトの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
12,600	ふるさと創生基金 12,600	需用費 10,000 備品購入費 2,000 補助金 600
(前年度予算 12,000)		

2 事業背景・目的

市では、全国の皆さんから寄付をいただいたふるさと納税を活用し、地元産品を使ったメニューやデザートを学校給食で提供する「ありがとう給食の日」を設け、食を通じて地域への感謝と誇りを養い、学校生活の楽しみを向上させる取組を進めています。

令和3年度からは、子ども目線から日々の学校生活の中で喜んでもらえる、小さな夢を叶えてあげられるような使途にもふるさと納税の活用の幅を広げ、学校給食の充実を始め、一流のスポーツ・文化芸術の体験、部活動の支援など、子どもたちが夢と笑顔であふれるようなプロジェクトを展開します。

3 事業概要

①【継続】学校給食の充実（10,000千円）

地元産品を使用したメニューや季節の果物等をデザートとして提供する「ありがとう給食の日」を年10回以上実施するとともに、地域の生産者を招き食材づくりの仕組みやこだわりを学ぶ「ふるさと学校給食」を実施し、地域への感謝と誇りを養います。

②【新規】オリンピック・トップアスリート等との交流体験（600千円）

オリンピック出場経験者やトップアスリート等とふれあい、一流の技術や精神を学ぶことで、スポーツの魅力創出と競技力・指導力の向上に取り組めます。

③【継続】部活動に打ち込める環境づくり（2,000千円）

部活動で使用する共用備品の計画的な更新を図り、子どもたちが不安なく部活動に打ち込める環境を整備します。

(款) 10 教育費	(項) 3 中学校費	(目) 2 教育振興費
	(項) 5 保健体育費	(目) 2 保健体育振興費 4 学校給食費
所 属	教育委員会事務局教育総務課 TEL0577-73-7493 スポーツ振興課 TEL0577-62-8030 学校教育課 TEL0577-73-7494	予算書 P.127 P.136 P.138

新規 神岡小学校の大規模改修

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
140,200	国庫補助金 38,567 学校債他 101,400 一般財源 233	工事請負費 140,200
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

市では、小中学校の耐震化整備を最優先の投資事業と位置付け、対策が必要なすべての学校施設の耐震改修を平成24年度までに実施しており、令和2年度には体育館の非構造部材耐震化事業も完了します。

その一方、神岡小学校校舎（昭和61年建築）は必要な耐震性能を満たしていたため、これまでに大きな改修が行われておらず、外壁には多数のクラックが生じ、建物内部も各所に経年劣化が見られます。

このため、令和3年度からの2か年計画により、国庫補助事業を活用した外壁等の安全対策に加え、屋根、内装、放送・照明設備の一体的な大規模改修を実施し、安全で安心な学校環境の整備を図ります。

3 事業概要

夏休み期間中に集中的に施工するため、工区を分割し2年度にわたって順次改修工事を行います。

令和3年度 大規模改修第1期工事（外壁、屋根改修、放送機器）

令和4年度 大規模改修第2期工事（外壁、内装改修、照明器具）



(款)	10 教育費	(項)	2 小学校費	(目)	1 学校管理費
所 属	教育委員会事務局教育総務課	TEL	0577-73-7493	予算書	P.124

拡充 飛騨市学園構想の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,000	ふるさと創生基金	3,912	委託料	3,011
	県補助金	88	報償費	366
			その他	623
(前年度予算 5,702)				

2 事業背景・目的

飛騨市学園構想は、育てたい子ども像（未来の創り手像）を地域全体で共有し、市内の保育園・小中学校・高等学校・特別支援学校を一つの学園に見立てて、系統性・連続性のある一貫した課題解決型カリキュラムの実践に取り組むとともに、地域住民と学校の連携・協働の場となる学校運営協議会に携わる大人の幅を広げていくことで、地域で育て地域も育つ教育活動を目指すプロジェクトです。

事業初年度の令和元年度に「飛騨市学園ビジョン」を策定し、令和2年度は、具体的なカリキュラム編成やコミュニティスクールの導入などの地盤づくりを進める中で、コロナ禍における地域と学校の関わり方など新たな課題も見えてきました。

令和3年度は、カリキュラムの本格実施を図り、日々の学校生活やさまざまな人々との交流を通じて、社会とつながった確かな課題解決能力を育むとともに、地域学校協働活動の普及推進や教育フォーラムの開催により地域の大人たちを取り込み、地域ぐるみによる学園構想の更なる充実強化に取り組みます。

3 事業概要

①【新規】課題解決型カリキュラムの実施とブラッシュアップ (195千円)

日々の授業において課題解決型カリキュラムを本格的に実践するとともに、教職員向けのスキルアップ研修会を開催し、より良い授業づくりに取り組みます。

②【継続】飛騨市教育フォーラム「まなびみらい会議2021」開催 (616千円)

教育フォーラムの開催を通じ、飛騨市学園構想を地域の内外に広く周知するとともに、地域住民が未来の創り手育成に主体的に参画しようとする意識を醸成します。

③【継続】学園構想プロジェクトの企画運営 (3,189千円)

市内の教育支援事業者への業務委託により、事業の円滑な企画運営を図ります。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会事務局学校教育課	TEL	0577-73-7494	予算書	P.121

拡充 ICTを効果的に活用した授業づくり

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
40,860	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">学校施設整備基金他</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">32,062</td> <td style="width: 33%;">備品購入費</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">21,455</td> </tr> <tr> <td>過疎債</td> <td style="text-align: right;">6,600</td> <td>工事請負費</td> <td style="text-align: right;">7,649</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">2,198</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">11,756</td> </tr> </table>	学校施設整備基金他	32,062	備品購入費	21,455	過疎債	6,600	工事請負費	7,649	一般財源	2,198	その他	11,756	
学校施設整備基金他	32,062	備品購入費	21,455											
過疎債	6,600	工事請負費	7,649											
一般財源	2,198	その他	11,756											
(前年度予算 13,940)														

2 事業背景・目的

新学習指導要領では、情報化を通じた教育の質的改善により、児童生徒に確実に資質や能力を育むことが求められており、学校におけるICT環境の整備は急務となっています。

こうした中、市では国のGIGAスクール構想に呼応し、1人1台のタブレット端末の配備と高速大容量ネットワークの整備に取り組んできました。

令和3年度は、引き続きICT環境の整備を進めるとともに、専門的な知見を有するICT支援員を配置し、授業における効果的な活用を促すことで、課題解決能力や情報活用能力を備えた飛騨市ならではの人づくりに取り組みます。

3 事業概要

①【新規】ICT支援員の配置 (2,391千円)

授業でのICT機器の効果的な活用をサポートする専任のICT支援員を配置し、すべての小中学校において授業改善を図ることで、児童生徒の課題解決能力や情報活用能力を育みます。

②【拡充】すべての理科室と小3普通教室にICT環境を整備 (29,090千円)

小中学校の理科室と小学校3年生の普通教室に電子黒板・授業用PCを整備し、デジタル教材(教科書)やタブレット端末と併せて活用することで、児童生徒が学習内容をより確かに理解できるようにするとともに、他者との活発な意見交換を促し、自らの考えを広げ深める授業づくりを進めます。

③【継続】小学校3年生以上の1人1台タブレット端末環境の実現 (9,379千円)

小学校児童用のタブレット端末を増台し、3年生以上での1人1台の使用環境を実現します。また1・2年生においても2人で1台の使用が可能となります。

(款)	10 教育費	(項)	002 小学校費・003 中学校費	(目)	02 教育振興費
所 属	教育委員会事務局学校教育課	TEL0577-73-7494	予算書	P.120	

【拡充】 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
9,634	県補助金	508	会計職人件費	8,576
	一般財源	9,126	報償費	690
			その他	368
(前年度予算 6,796)				

2 事業背景・目的

市内の小中学校には、生活への不安や学習への困り感から個別の支援が必要な児童生徒が少なからず在籍しており、こうしたことが不登校や社会不適応につながってしまう場合もあります。

このため、子どもたち一人一人が将来の自己実現に向けて歩みだせるよう、学校内外を問わずどこでも学習の機会を保障するスタディーサポーター（学習支援員）の配置、学校カウンセリングの専門家による児童生徒支援訪問、生活面・学習面における一貫性のある教育支援を行うための保育園・小中学校の連携を三本柱と位置づけ、一人一人の個性を大切にし、温かく支える学校づくりに取り組みます。

3 事業概要

①【拡充】スタディーサポーターの配置 (8,619千円)

古川中校区に3名（1名増員）、神岡中校区に1名のサポーターを配置し、不登校・不登校傾向にある児童生徒への個別の学習支援を行います。

②【継続】児童生徒支援訪問の実施 (791千円)

日本学校心理士会理事（元岐阜大学教授）の橋本治先生による市内全小中学校の訪問（観察・助言）を行うとともに、児童生徒支援員・学校職員に対する研修会を開催します。

③【継続】保小中連携の推進 (224千円)

小学校新1年生の保護者に向けたリーフレットを作成・配布するほか、保小中連携教育推進委員会や保小合同研修会を開催し、切れ目のない教育支援を推進します。

(款) 10 教育費	(項) 001 教育総務費 002 小学校費・003 中学校費	(目) 02 事務局費 02 教育振興費
所 属	教育委員会事務局 学校教育課 TEL0577-73-7494	予算書 P.120

拡充 学校外での学習環境・体験活動の充実と指導力の向上

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,427	一般財源 1,427	工事請負費 786 報償費 274 その他 367
(前年度予算 311)		

2 事業背景・目的

飛騨市教育研究所（教育委員会事務局内）では、学校教育に関する教員研修、教育相談、情報化推進を支援し、教育指導の充実と学力の向上、いじめや不登校の早期発見・早期支援に取り組んでいます。

社会環境の高度情報化やグローバル化が進む中、未来の創り手となる児童生徒には情報活用能力やグローバル化に対応する力（外国語によるコミュニケーション、日本の伝統文化に対する深い理解）の育成が重要視されており、同時にそれを叶えるための教職員の指導力向上が求められています。

こうした課題に対応するため、児童生徒の体験活動や教職員向けのICT教育研修の充実を図るとともに、学校外での教育相談環境の整備を行います。

3 事業概要

①【新規】教育相談室「グリーンルーム」の環境整備（786千円）

千代の松原公民館内の教育相談室「グリーンルーム」の空調設備を整備し、同所で学ぶ児童生徒の教育環境の向上を図ります。

②【継続】児童生徒の体験活動の充実（191千円）

郷土の自然とそれを大切にしている人々との触れ合いを通じ、郷土愛と気づきを深める体験活動を開催します。また、市内勤務ALT等と英会話のみで1日生活するイングリッシュデイキャンプを開催し、コミュニケーション能力や表現力を培います。

③【継続】教職員研修の充実（450千円）

ICTを活用した授業づくり（小学校：プログラミング、中学校：プレゼン資料作成等）を推進するため、教職員を対象とした研修を開催します。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会学校教育課 TEL0577-73-7494		予算書	P.121	

拡充 地域コミュニティ活動の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
13,547	一般財源	13,547
	補助金	13,547

(前年度予算 3,000)

2 事業背景・目的

市内の地域公民館等の集会施設は、コミュニティ活動の拠点のみならず、有事の際には避難所に指定されるなど重要な役割を担うことから、これらの機能の維持向上と地域負担の軽減を図るため、大規模修繕等に対する補助メニューを拡充します。

また、地域コミュニティ活動の活性化を促す新たな制度として、講演会や研修会を開催する費用の一部を支援することで、地域コミュニティにおける学習機会を促進し、地域の連帯感の醸成を図ります。

3 事業概要

①【拡充】集落有集会施設の機能向上 (13,047千円)

集会施設の機能向上を支援するため、集落有集会施設整備事業補助金に次のメニューを追加します (メニュー毎に同一施設につき1回限りを原則とします)。

対象施設：自治会などが所有する公民館等の集会施設

補助項目：①建物の屋根・外壁の修繕工事

②駐車場用地の購入費 (100㎡以上) 及び造成費

補助率等：事業費の1/3 (上限額①200万円、②用地750万円/造成200万円)

②【新規】地域コミュニティにおける学習機会の促進 (500千円)

地域コミュニティ活動の更なる活性化を目指し、地域の集会施設で研修会や講演会を開催する際に必要な費用の一部を補助します。

対象経費：講師謝礼及び交通費、事務消耗品

補助率等：開催経費の1/2 (上限10万円・1回/年)

※市ホームページ上で取組の実践例として紹介させていただくことがあります。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	5 公民館費
所 属	教育委員会事務局生涯学習課	TEL	0577-73-7495	予算書	P.132

[拡充] 飛驒市民カレッジの本開校 ～生涯学習の普及推進～

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
8,776	雑入	693	委託料	5,474
	一般財源	8,083	報償費	1,175
			その他	2,127
(前年度予算 5,164)				

2 事業背景・目的

人生100年時代を迎え、激しく変化し続ける現代社会において、私たちの暮らしをより楽しく豊かなものにしていく学びとして生涯学習の重要性が高まっていることを受け、大人のための学び直し講座「飛驒市民カレッジ」を令和2年度にプレ開校しました。

市民カレッジの本開校と位置づける令和3年度は、教育支援事業者等を交えた事務局体制の下、本物の大学を模した遊び心あふれる企画運営に取り組むとともに、年間を通じた魅力的なカリキュラムにより幅広い学びの分野をカバーすることで、市民一人一人の好奇心やペースに合わせた学習機会を提供し、市民自らによる「自分づくり」「仲間づくり」「地域づくり」を推進します。

3 事業概要

①【新規】飛驒市民カレッジの企画運営 (3,741千円)

教育支援事業者等に運営支援業務を委託し、市民代表による運営委員を交えた事務局体制の下、学校案内パンフレットや学生証の発行、学習テーマに応じた学科・ゼミの開設など、受講者が本物の大学さながらのキャンパスライフを疑似体験できるよう、真面目かつ面白おかしく遊び心を持った企画運営に取り組みます。

②【拡充】新たな切り口を持つ講座等の開催 (2,785千円)

これまで飛驒市ではなかなか接する機会が無かった著名人等による公開講座、飛驒・世界生活文化センターや大学・専門家と連携したアカデミックな講座に加え、市が推進するさまざまな政策事業をテーマに取り上げるなど、新たな切り口を持つ講座を開催します。

③【継続】公民館講座・自主講座との連携・補完 (2,250千円)

公民館講座・自主講座との連携・補完を図り、幅広い学びの機会を提供します。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 2 生涯学習振興費	
所 属	教育委員会事務局生涯学習課 TEL0577-73-7495	予算書	P.129

拡充 クアオルト健康ウォーキングの普及推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,667	ふるさと創生基金 2,667	委託料 2,600
		旅費 67
(前年度予算 3,467)		

2 事業背景・目的

健康意識の高まりから散歩・ウォーキング人口は広く全国に広まり、今ではライフスタイルの一部としても定着しつつあります。

市では、豊かな森林と冷涼な気候という恵まれた地理条件を活かしたクアオルト健康ウォーキング*の普及を目指し、令和元年度に飛騨市健康ウォーキングガイド協会を設立。クアの道認定コースの開設や指導員の養成、ウォーキングイベントの開催に取り組んできました。

令和3年度は、ガイド協会による定例ウォーキングを増回するとともに、新たなコースを設定するほか、参加者によるクラブ化の推進、県内のクアオルト実施自治体（岐阜市・関市）との連携を強化し、更なるウォーキングの普及と市民の健康づくりに取り組めます。

*気候性地形療法（心拍数や体表面温度を適切に管理しながら無理なく歩くことで健康づくりを行う）

3 事業概要

①【拡充】健康ウォーキングの推進（2,067千円）

ガイド協会による定例ウォーキングを週1回から2回に増回するとともに、協会独自認定の新たなコースを設定し、市民が気軽にウォーキングに参加できる環境づくりに取り組めます。

また、参加者によるクラブ化を推奨し、気心の知れた者同士が集い自由な活動に取り組むことで、市の健康ウォーキングに新たな流れを生み出します。

②【継続】指導員の養成（600千円）

市内3つの「クアの道」認定コースをガイドできる実践指導員の養成を行います。



(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	2 保健体育振興費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課	TEL	0577-62-8030	予算書	P.136

拡充 飛驒市スポレク まつり 祭の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
900	一般財源	900 補助金 900
(前年度予算 900)		

2 事業背景・目的

古川町地区の秋の恒例行事として知られる「古川町スポーツフェスティバル」は、平成2年から続くお馴染みのイベントですが、長期化とともに内容がマンネリ化し、来場者数もピーク時の1/3程度まで落ち込むなど、今後の在り方が問われていました。

そこで、従来の古川町の子どもたちを主体としたイベントから、全市的なイベントに転換すべく、令和2年度に設立された飛驒市レクリエーション協会を主体とした実行委員会による「飛驒市スポレク祭（まつり）」を新たに開催します。

3 事業概要

飛驒市スポレク祭は、①楽しさと笑顔があふれる、②市民全員が参加できる、③無理のない運営体制の3つをスローガンに掲げ、市内各町での持ち回りで開催することで、全市的に馴染みのあるスポーツ・レクリエーションイベントとしての定着を目指します。

令和3年度は（一社）飛驒古川青年会議所主催の「ひだのはたらく車展」との合同開催とすることで、様々な世代に楽しみの幅を広げ、魅力的で斬新なイベント運営に取り組みます。



(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	2 保健体育振興費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課		Tel.0577-62-8030	予算書	P.136

継続 飛騨市屋内運動場の整備

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
96,367	過疎債 96,200 一般財源 167	工事請負費 53,520 委託料 42,772 その他 75
（前年度予算 1,248 ）		

2 事業背景・目的

市では、平成30年度に飛騨市スポーツ施設整備計画を策定し、計画的かつ効果的・効率的な事業実施により、市民のさまざまなスポーツ活動を支える良好な環境の整備に取り組んでいます。

多くの団体からご要望をいただき、本計画における最優先の新規事業と位置付ける全天候型の飛騨市屋内運動場について、令和5年度の供用開始を目指し、引き続き整備を推進します。

3 事業概要

① 整備検討委員会の開催（75千円）

設計業務と連動し、整備検討委員会において詳細な施設内容等の検討を行います。

② 屋内運動場の基本・実施設計（42,772千円）

整備検討委員会の意見を踏まえながら、屋内運動場の基本・実施設計を行います。

③ 既存施設の除却（53,520千円）

屋内運動場の建設地となる飛騨市森林公園内の既存施設（管理棟・宿泊棟・テニスコート場）の除却工事を行います。



(款) 10 教育費	(項) 5 保健体育費	(目) 3 体育施設費	
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課	TEL0577-62-8030	予算書 P.136

新規 **スポーツに特化した新たな学童保育の推進**

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,900	ふるさと創生基金 1,420 雑入 480	委託料 1,900

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

子どものスポーツ離れや体力低下が大きな社会問題となっている中、統合型地域スポーツクラブ「飛騨シューレ」では、令和2年度スポーツ庁モデル事業の採択を受け、神岡町を拠点としてスポーツに特化した学童保育「インクルーシヴ・スポーツ学童」を開催し、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会の創出に取り組まれています。

この活動の更なる深化と全市的な展開を目指し、令和3年度より市の委託事業として新たにスポーツ学童保育を導入することで、すべての子どもたちがスポーツと学習を生活の一部として取り入れることができる地域づくりを推進します。

3 事業概要

統合型地域スポーツクラブ「飛騨シューレ」への業務委託により、神岡町地区の小学生及び保育園年長児を対象として、桜ヶ丘体育館を拠点に週1～2回のスポーツ活動に特化した学童保育を実施します。

実施にあたっては、地元高校、大学、地域内外の産業界などの様々な主体と分野を超えて連携し、地域ぐるみで子どもたちのスポーツ環境の充実を図ります。

(サービスの流れ)

- ・ 小学校から桜ヶ丘体育館へバス移動 (保育園児は保護者による送迎)
- ・ 補食及び学習 (宿題や自主学習)、スポーツ活動 (各種スポーツの体験)
- ・ 終了後 保護者または他のスポーツ活動への引き渡し



(款) 10 教育費	(項) 5 保健体育費	(目) 2 保健体育振興費	
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課 TEL0577-62-8030	予算書	P.136

新規 公共施設予約管理システムの導入

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
9,119	一般財源	9,119	委託料	7,826
			使用料	1,293
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

利用希望が集中するスポーツ施設などの予約管理については、調整会議を毎月開催し、利用者間の平等性の確保に努めてきました。一方、会議への参加や調整事務の負担軽減が積年の課題であることに加え、今般の新型コロナウイルス感染拡大を受け、利用者が一堂に集まる機会の削減が求められています。

また、未だに紙の申請書による予約管理を行っていることから、一般利用者からもインターネット申請の導入を求める意見が多く寄せられています。

このため、利用者の多いスポーツ・文化施設において、スマートフォン等から予約申請や自動抽選が行える公共施設予約管理システムをモデル的に導入し、併せてさるぼぼコインなどの多様な決済手段への対応を図ることで、利用者の負担軽減と利便性の向上に取り組みます。

3 事業概要

繁忙期における予約集中や重複時の自動抽選、帳票管理、多様な決済手段など十分な機能を備えた専用システムを導入することで、利用者の平等性の確保と利便性の向上を図ります。

また、モデル施設におけるシステム導入効果を十分に検証したうえで、他の公共施設への適用拡大を検討します。

(モデル施設)

古川町トレーニングセンター、森林公園野球場、サン・スポーツランドふるかわ、杉崎公園グラウンド、古川小体育館、古川西小体育館、古川中体育館、飛騨市文化交流センター

(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	3 体育施設費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課		TEL0577-62-8030	予算書	P.137

拡充 飛驒の糸引き工女の史実調査・研究

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
925	ふるさと創生基金	463	需用費	450
	国庫補助金	462	委託料	200
			その他	275
(前年度予算 2,011)				

2 事業背景・目的

市内には明治期の日本の産業近代化の礎として信州の製糸産業に貢献した「飛驒の糸引き工女」の足跡が今も多く残されています。

市では、家族のために一生懸命働いた工女たちの真実に迫るため、平成30年度より史実研究に取り組み、映画「あゝ野麦峠」で知られる女工哀史の側面ばかりではなく、徐々に労働環境の改善が図られ大切な労働者として手厚い待遇を受けていたことや、彼女たちが得た貴重な現金が飛驒に暮らす家族の生活を支え大いに感謝されていたことなど、時代を生きた工女たちの姿が明らかとなりました。

令和3年度は、飛驒の糸引き工女の真の物語をより多くの方に知っていただけるよう、研究成果報告会を開催するとともに、製糸産業にまつわるドキュメンタリー映画の上映会や工女ゆかりの地を巡るまち歩きツアー、糸引き体験ワークショップを実施します。

3 事業概要

①【拡充】研究成果報告会等の開催 (395千円)

史実研究の集大成として成果報告会を開催し、工女たちの実際の生活などを紹介するとともに、市内で一部の撮影が行われた養蚕と製糸産業にまつわるドキュメンタリー映画 (2021年春全国上映開始) の上映会を開催します。

②【新規】飛驒の糸引き工女を学び楽しむツアー等の開催 (530千円)

飛驒の糸引き工女の真実を学びながら楽しんでいただけるよう、古川町内のゆかりの地をめぐるまち歩きツアーや糸引き体験ワークショップを開催します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	3 文化振興費
所 属	教育委員会事務局文化振興課		TEL0577-73-7496	予算書	P. 129

[拡充] 江馬氏城館跡の保存活用の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
9,598	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">5,951</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">3,647</td> </tr> </table>	国庫補助金	5,951	ふるさと創生基金	3,647	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">公有財産購入費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">6,471</td> </tr> <tr> <td>委託料</td> <td style="text-align: right;">2,207</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">920</td> </tr> </table>	公有財産購入費	6,471	委託料	2,207	その他	920
国庫補助金	5,951											
ふるさと創生基金	3,647											
公有財産購入費	6,471											
委託料	2,207											
その他	920											
(前年度予算 3,765)												

2 事業背景・目的

江馬氏城館跡は、県内で初めて国の史跡・名勝の二重指定を受けた重要な文化財です。

市では、この誇りある歴史資源を後世に継承するため、平成30年度に史跡等の保存活用計画を策定し、適切な保存管理を図りつつ、市民や観光客にも親しんでいただけるよう歴史講座・体験イベント等の開催を進め、中でも中世の武家館を復元した会所・庭園部分の積極的な利活用に取り組んでいます。

令和3年度は、新たに遺構保存地区の公有地化を進めるとともに、地域のまちづくり団体との連携による利活用促進や関連山城群の一つである傘松城の国史跡への追加指定に向けた準備を進め、更なる史跡等の保存活用を推進します。

3 事業概要

①【新規】遺構保存地区の公有地化 (6,471千円)

下館跡の遺構保存地区内の一部において、土地所有者から譲渡の申し出をいただいたことから、当該土地を取得し公有地化することで、適切な保存管理を図ります。

②【継続】江馬氏城館跡の利活用促進 (1,000千円)

地域のまちづくり団体と連携し、城館跡での飲食イベントの開催やPR事業の展開により認知度向上を図るとともに、施設の利活用の幅を更に広げ、周辺のカミオカラボや神岡城なども含めた一体的な誘客促進に取り組みます。

③【継続】史跡等の適切な保存管理 (2,127千円)

保存活用計画に基づく施設の維持修繕、案内サイン等の整備、傘松城の追加指定に向けた準備のほか、庭園のライトアップや来館促進キャンペーンなどを実施します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化財保護費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.130

拡充 姉小路氏関連山城群の調査・活用の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,223	ふるさと創生基金 1,501 国庫補助金 424 一般財源 1,298	会計職人件費 1,298 委託料 848 その他 1,077
(前年度予算 2,557)		

2 事業背景・目的

古川町各地に点在する飛騨国司・姉小路氏関連の山城跡は、中世の飛騨国の中心であった古川盆地の覇権を巡って繰り広げられた飛騨の歴史を物語る貴重な遺産であり、市ではこれらの国史跡指定を目指して平成30年度から総合調査を実施しています。

令和3年度は、これまでの調査結果の整理と調査報告書の執筆、令和4年度の国史跡指定意見具申に向けた土地所有者の同意取得を進めるとともに、山城イベントの開催や復元イラスト・PR動画の作成により、郷土の誇りである山城の魅力をより多くの方に学び体感していただくことで、山城資源を活用した地域づくりに取り組みます。

3 事業概要

①【拡充】国史跡指定に向けた調査報告書等の作成 (2,155千円)

これまでに実施した各種調査の整理作業を進め、調査報告書の執筆を行うとともに、国史跡指定に必要な土地所有者の同意取得に取り組みます。

②【継続】山城イベントの開催とPRツールの製作 (1,068千円)

飛騨の山城の魅力を体感し歴史を学んでいただくため、市内外の方を対象に現地見学と歴史講座をセットにした山城イベントを開催するとともに、誰もが自由に山城を訪れていただけるよう案内看板の整備を行います。

また、山城の往時の姿を広く知っていただくため、復元イラストの製作を行います。



飛騨の城跡
Castle Ruins in Hida



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化財保護費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL0577-73-7496	予算書	P.127	

新規 みんなにやさしい図書館づくり

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
800	ふるさと創生基金	800	備品購入費	640
			役務費	90
			その他	70
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

市では、令和2年3月に「飛騨市障がいのある人もない人も安心して共に暮らせるまちづくり条例」を制定し、障がいや障がいのある人に対する理解を深め、お互いの人権や尊厳を大切に、尊重し合う共生社会の実現を目指しています。

また、令和元年6月に読書バリアフリー法が施行され、地方公共団体は地域の実情を踏まえ、障がいのある方の読書環境を整備することが責務とされています。

こうした状況を踏まえ、障がい等により図書館の一般利用が困難な方々が、気兼ねなく安心して図書館サービスを利用できる体制づくりに取り組みます。

3 事業概要

① 視覚障がいのある方や目の不自由な方への対応 (680千円)

点字図書館より録音図書を借り受け、館内再生機器による利用や貸出サービスを提供するとともに、拡大読書器や活字文書読み上げ装置を設置します。

② 郵送貸出サービスの導入 (120千円)

障がいのある方やその介護等により図書館の一般利用が困難な方に対し、郵送によりご自宅へ図書を貸し出すサービスを導入します (送料は図書館が負担します)。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	6 図書館費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.132

新規 電子図書貸出サービスの導入

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,000	一般財源	4,000	使用料	4,000

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者の安全と健康を守るために図書館のサービスは大きく制約を受け、現在も座席の間引きや換気・消毒作業、イベントの中止・縮小などのご不便をおかけしており、未だ来館者数の回復傾向が見られない状況にありますが、こうした中でも皆さんが「知る」ことに応えられるサービスを提供し続けることが、地域の知の拠点たる図書館の役割であると言えます。

そこで、コロナ禍にあっても安心して図書館を利用していただけるよう、これまでの紙の図書に加えて、令和3年度より新たに電子図書の貸出サービスを開始します。

これにより、一部の図書では電子版も選択でき、遠方にお住いの方や移動が困難な方にも気軽に利用していただける利便性の高い図書館づくりを推進します。

3 事業概要

近年のスマートフォンやタブレット端末の普及により、電子図書の利用が一般的になってきたことを踏まえ、新型コロナウイルス感染対策はもとより、遠方居住者や移動が困難な方、図書館をあまり利用されない方へのサービス拡充を目的として、飛騨市図書館での電子図書貸出サービスを導入します。

- ・ 図書利用が少ない中高生向けの図書など約 1,000 冊の蔵書を提供します。
- ・ ご自身のPCやスマートフォン、タブレット端末を利用し、インターネットを経由していつでもどこでも図書の検索・貸出・閲覧ができ、返却期限になると自動的にデータが削除されます。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	6 図書館費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.133

[拡充] 飛騨みやがわ考古民俗館の活用促進と魅力発信

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
339	ふるさと創生基金	318	使用料	200
	雑入	21	報償費	50
			その他	89
(前年度予算 2,052)				

2 事業背景・目的

飛騨みやがわ考古民俗館は、国指定文化財である積雪期用具や旧石器～縄文時代の出土品など貴重な文化財を多数収蔵・展示し、とりわけ太古の祈りに捧げられた石棒の数には目を見張るものがありますが、認知度の低さやアクセスの不便さから来館者数が極めて少なく、現在は予め開館日を定めての縮小運営を余儀なくされています。

この状況を打開すべく、平成30年度より関係人口の皆さんらと「石棒クラブ」を立ち上げ、石棒のコアなファンを増やす取組を進めるとともに、全国の小規模博物館で構成する「小さいとこネット」に加盟して相互交流を深めてきました。

令和3年度は、石棒の3Dデータ化の促進やバックヤードツアーの開催など石棒クラブの活動の充実化を図るとともに、小さいとこネットの全国大会を招致します。また、老朽化が進む館内の茅葺住宅「旧中村家」の再整備を目指してふるさと納税による財源確保を進め、更なる館の活用促進と魅力の発信に取り組みます。

3 事業概要

①【拡充】石棒クラブによるコアファンの獲得と魅力発信 (289千円)

石棒の3Dデータ化体験会を開催するとともに、意欲的に活動する会員に対し宿泊費を含む会場使用料を支援することで、データ化の促進とその活用を図ります。

また、土偶女子として知られるコンダアキコ氏を招いたバックヤードツアーを開催し、コアな石棒ファンの獲得と館の魅力発信に取り組みます。

②【継続】小規模ミュージアムサミット全国大会の招致 (50千円)

コロナ禍により前年度の開催が中止された小さいとこネットの全国大会を改めて飛騨市に招致し、館の活用促進と認知度向上を図ります。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	7 文化施設費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.133

新規 飛騨市美術館の大規模修繕

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
9,700	合併特例債 9,200 文化・交流振興基金 500	委託料 9,700
(前年度予算 0)		

2 事業背景・目的

飛騨市美術館は、平成4年度に整備された飛騨の山樵・木工用具の収蔵展示施設「飛騨の山樵館」の一部を改修し、平成18年度より新たにオープンした施設です。

専用に設計された建物ではなく使いづらさがある中でも、地域唯一の公立美術館として個性ある企画運営に取り組んできましたが、施設機能に対して元々の空調設備の能力が十分ではなく、経年劣化も著しく進行していることから、館の運営に支障をきたし始めています。

このため、令和4年度に空調設備の全面更新を主体とした美術館の大規模修繕を実施するものとし、その実施設計に着手します。

3 事業概要

空調設備の全面的な更新を中心に、館内導線の見直しや研修室を市民ギャラリーとして利用するための模様替えを含む大規模修繕の実施設計を行います。



(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 7 文化施設費	
所 属	教育委員会事務局文化振興課 TEL0577-73-7496	予算書	P.134